

# 開隆堂がめざすもの

◆感性を育み地域の教育力を生かす図画工作◆



土って、はだしてふむときもちがいいね。

## ●小学校図画工作の教科目標(学習指導要領より)●

表現及び鑑賞の活動を通して、



感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、



造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。



藤澤英昭  
千葉大学教育学部教授

# 図画工作科 のめざす学び

## ■感性を育む図画工作

今回の図画工作科の学習指導要領では、「感性」という言葉がキーワードとしてあげられました。季節の花や生活場面の情景を美しいと感じることのできる心豊かな人の成熟を、また、自然へのやさしさや人への思いやりが育まれ、文化的な財産としての美術品などへの敬意につながっていくことを目指しているのです。

## ■学習指導要領に示された図画工作科の目標

算数や国語のように細分化された目標ではありません。つまり絵や工作を上手に描いた

りつくったりという細分化された資質や能力ではなく、総合的な表現や鑑賞の活動の中で大きな育ちをしていくことを目標としています。形、色などを中心に据えたわくわくするような題材の提案により、児童が全身全霊で望ましい活動を十分に行ったときに、造形にかかわる力も獲得され则认为しているのです。

## ■教科書の役割

平成元年から「激しく変化する社会に主体的に生きていく人間像」が期待されています。「自ら学ぶ意欲」や「生きる力」では学校での学習をもとにし、生涯にわたって表現や鑑賞

の活動を続けて欲しいという意図が見えます。そうすると児童自らが造形活動を始めなくなるような教科書や題材が望ましいのです。図画工作の教科書はまずもって児童の心に共鳴するものでなくてはなりません。

## ■よい教科書、よい題材とはなにか

今までの教科書はどちらかといえば教師が教えやすい教科書だけがよい教科書と考えられてきました。しかし前述のように平成元年からは「自ら学ぶ」ことが大切にされてきていることから、教科書の内容や題材の提案に求められることも変化しています。

- ① 児童が意欲的に取り組める魅力的な提案がなされているか。
  - ② どの児童も取り組めるような幅の広さがあるか。
  - ③ つくり出す過程で十分な試行錯誤を保証しているか。
  - ④ 児童が取り組んだときに自らを高めていける奥行きを深さをもっているか。
  - ⑤ 題材を通して獲得した「力」は生涯にわたって、その人の生き方に働きかけるような永続性を期待できるものか。
- 教科書では、これらの項目をクリアした活動や題材が提案されるべきでしょう。

## 図画工作科で、日常の生活の中から 美しさを感じ取る感性を育みます。

生活場面のから美しさを感じ取ったり、身のまわりのすてきな形や色に気づいたりします。



落ちていた花びらに季節を感じて。



ジャングルジムで遊ぶ友だち。  
上から見ると四角いトンネルの中にいるみたい。

## 図画工作に地域の教育力を生かします。

各地域にはその地域ならではの素材があります。また、地域の方の協力で図画工作の授業が活性化したり、図画工作の力を地域に役立てたりすることもできます。



地域の方に頼まれて、シャッターに絵を描きました。通行する人がたのしく見てくれるといいな。



雪のテーブルで木の実のパーティーのはじまり。



地域の伝統的なおもちゃ「昇り猿」(宮崎県)



藤澤英昭（ふじさわひであき） 千葉大学教育学部教授。

1944 年、東京都生まれ。東京教育大学大学院修了。小学校学習指導要領解説図画工作編作成協力者会議委員をはじめ、文部科学省各種協力者委員会委員を歴任。長年、小学校図画工作科および中学校美術科教科書の編修に携わり、日本の図工・美術教育をリードし続ける。

## ■これからの図画工作

人の判断はすべて感性的な判断から出発するとも言えます。家族や地域の美的な価値観に導かれていることが多いのです。私たちは焦って人類の美的財産をすぐ教え込もうとしますが、それは児童にとって実感を伴っていないので、単なる知識に終わってしまいます。これからの図画工作では、地域がもっている

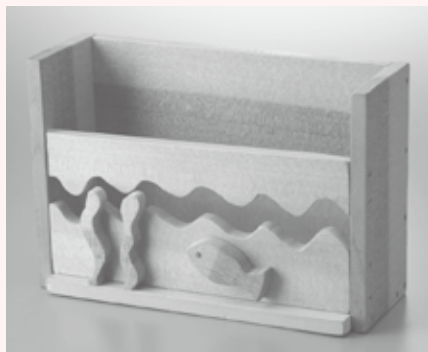
美意識を教育力として生かし、地域のかげがえの無い自然、地域の大人の感じ方、表現された地域特有の美意識と交流することで、自分の美的な判断のルーツを辿ったり、他の感じ方への新しい可能性を開いたりしてくれるはずです。造形を通してさまざまなつながりを得ていく、これが児童の大きな学びへとつながっていくのです。

# 図画工作の力で生活を豊かにします。

用途を考えて作品をつくり、学校や自宅ですったり飾ったりします。



マグネットの飾りをつくって、冷蔵庫にべったん！



木目を生かしてつくった「海底ボックス」



空き容器を使って鉛筆立てをつくった。

[小学校図画工作科教授用資料] AJ



## 開隆堂出版株式会社

<http://www.kairyudo.co.jp>

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1  
TEL. [代表] 03-5684-6111 [編集] 03-5684-6117 [営業] 03-5684-6121, FAX 03-5684-6122  
北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西 6-11 札幌北辰ビル 8F TEL.011-231-0403  
東北支社 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町 1-11-1 萩野町 M ビル 2F TEL.022-782-8511  
名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町 14-4 星が丘プラザビル 6 階 TEL.052-789-1741  
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町 2-10-16 TEL.06-6531-5782  
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港 2-1-5 FYC ビル 3 階 TEL.092-733-0174